トキと自然の学習館 便り

H30.3.2
No.10

■平成30年2月18日(日曜日)、トキと自然の学習館自主事業**「冬の海鳥観察会」**を開催しました。

厳しい冬の日本海に生息する海鳥の生態などを学び自然環境を保全する大切さについて学習しました。

当日は、強風で雪が舞うあいにくの天候だったため、寺泊水族博物館の最上階にある展望室から海鳥観察を行いました。

双眼鏡にあまり触れた事がない子どもたちは、慣れない様子で、「長岡野鳥の会」の先生からピントの合せ方などを教えてもらっていました。

ほらほら**「オオセグロカモメ」**が飛んで来たよ!!　次は**「ウミネコ」**が来たよ!!　と先生も興奮してました！

強風のなか、ウミネコが集団で休んでいる様子や**「オオセグロカモメ」**、**「セグロカモメ」**などの野鳥を観察することができました。

先生の話によると、毎年野鳥を観察しているが、温暖化などの影響により、年々渡り鳥などの野鳥が減少しているとのことです。

寺泊水族博物館では、館長さんから飼育中の生物の生態などについて解説していただきました。

日本に来るウミガメの代表的なものは**「アカウミガメ」**や**「アオウミガメ」**、**「タイマイ」**の3種類で、館内で飼育しているアカウミガメは、ここに来て、20年も経っているとのこと。甲羅の大きさが1mになるには10年もかかるそうです。

ポイ捨てされたビニールや発泡スチロールなどのごみは海まで流れでて、魚などの生物に悪影響をおよぼしているとのこと。カメは、好物のクラゲと間違えて食べてしまい死んでしまうこともあるとか。

このことを知った子ども達は、**「ごみは捨てずに持ち帰る！ポイ捨てをみかけたら注意する！」**などと保護者の方に話していました。

最大50㎝程のおとなしい**「トラザメ」**。今回は特別に、本物の「サメ肌」に触れてみることができました！ワサビおろしの金として使用されたと聞き、子どもたちも感心していました。

長岡市寺泊文化センターに移動し、「オジロワシの生態」などについて教えてもらいました。

「オジロワシ」は、翼を広げると約180㎝とタタミ1畳くらいの大きな鳥です。11月末から12月ころにシベリアから越冬のため、毎年、同じ“つがい”が信濃川にやって来て、マガモやコイなどをエサとして食べるそうです。

体は、オスよりメスのほうが大きく、常にオスより優位に立っています。エサを持ち帰らないと、オスが足蹴される事もあるとか？エサは、メスが先に食べて残りをオスが食べる“かかあ天下”社会であることを知りました。

カモなどを捕まえるために使う散弾銃の流れ弾がオジロワシの足に当たったり、釣り針や糸が体に巻きついて飛べなくなってしまうこともあるそうです。

長岡に今後も渡り鳥が来るよう、釣り場などの清掃をして、自然環境を守ることも必要との話がありました。

次に、長岡市でのトキの飼育状況の説明を行いました。トキ分散飼育センターでは、現在6羽の**「トキ」**を飼育（オス3羽、メス3羽）しています。同施設では30羽のトキが巣立ち、29羽を佐渡へ移送していてこれまでに長岡生まれのトキ14羽が佐渡の大空へ放鳥されています。

参加者からは「長岡にトキが飼育されていることをはじめて知った！」、「トキを間近で見てみたい！」「トキが一般に公開されたら見てみたい！」などの意見が聞かれました。

NEWS

長岡市では、平成23年10月から寺泊夏戸地域でトキの分散飼育を行っています。

これまでは非公開でしたが、多くの市民の皆様にトキの保護と自然環境保全の重要性や佐渡での野生復帰の取組について関心を深めてもらうため、平成30年度以降のトキの一般公開に向け、現在、公開施設を整備中です。

なお、トキと自然の学習館では、出前講座を行なっておりますのでお気軽に問い合わせください。

長岡市トキと自然の学習館
長岡市寺泊夏戸2829番地
TEL：0258-75-3160
FAX：0258-75-3201